

平成 27 年度 J A 青年組織活動実績発表

岩手中央農協青年部 委員長 阿部秀昭

「フルーツであま〜い婚活ツアー」

1. JA の紹介

J Aいわて中央は、岩手県の中央部に位置し、北から県庁所在地である盛岡市（玉山区を除く）、矢巾町、紫波町が当 J A の区域となります。平成 11 年に、旧 J A 都南、J A やはば、J A 岩手紫波町が合併し J Aいわて中央が発足しました。その後、平成 19 年に旧 J A 盛岡市との合併を経て現在に至ります。

組合員数約 18 千人、うち正組合員が約 1 万人。正組合員戸数にして 8 千戸となっています。

営農の内訳は、水田営農が農業の中心であり、水稲と転作の小麦が主力品目であります。その他、園芸ではリンゴについても産地の知名度が上がっており、海外にも市場が広まって来ております。園芸品目は多彩であり、近年ではズッキーニの栽培にも力を入れています。畜産においても、紫波もちもち牛やしわ黒豚などのブランドも確立してきています。

また、皆さんもご存じかもしれませんが、J A のブランド名として「食農立国」という商標を登録し農畜産物の P R とブランド化に向けて取り組んでおります。

当青年部の活動としましては、当 J A が四国の J A えひめ南（愛媛県宇和島市）との姉妹提携を結んでおり、えひめ南青年部との交流も定期的に行い、毎年愛媛みかんの販売を J A 子会社の直売所であるサン・フレッシュ都南で行ったり、互いに J A を訪問したり交流をしています。その他、各市町毎に開かれる「さなぶり祭り」や「産業祭」等への出店なども積極的に行っております。食育活動への支援や、学童農園なども主体的に行ってきました。

そして、今回ご紹介するのは「フルーツであま〜い婚活ツアー」です。

2. 婚活イベントに取り組む背景

最初に、婚活イベントの開催に至る経緯をお話ししたいと思います。

当青年部では毎年、J A 常勤役員と青年部との懇談会を開催し J A 事業への提言等を行ってきました。懇談会の具体的な内容としては、農業生産資材の価格高騰や自動車共済の事故対応にかかる担当者の不適切な対応の指摘など、J A 事業全般にわたる内容を話してきました。当時私は、委員として本部役員になっておりましたが、当時の委員長をはじめ、青年部盟友に独身が多いことから、6 年前の懇談会において「婚活事業」についての提案が盟友から出されました。それ以前からも結婚活動に関する行事をやって欲しいという声もありましたが、懇談会では初めての提案でした。これを受け、J A の常

勤役員からも「いいことだ」と共感の言葉を頂きました。

その後、婚活イベント開催に向けた協議を役員会で行い、どのような内容にするべきかの検討から始めました。

第一目的は、青年部盟友の嫁探し。JAらしさを表現できる企画や参加者が参加しやすい内容であるかなどイベントの概略について検討しました。

その結果、1つには青年部＝農作業体験というイメージから「収穫体験」を行い、参加する盟友のなかにはリンゴ農家やブドウ農家も多く参加する男性の「見せ場」を作りました。単なる収穫体験と言ってもやはり女性受けするような企画にしたいという思いから「フルーツ」を取り入れることにしました。紫波町はフルーツの品目が豊富で、リンゴ、ブドウは特に盛んであったこともあり、「フルーツの収穫体験」を目玉にした企画という事で、この「フルーツであま〜い婚活ツアー」が誕生しました。

開催に向けて、青年部役員会で県外視察も実施し、秋田県のJAに出向いて婚活の事例を勉強してきました。視察で学んだ事としては、場を盛り上げるためにミニゲームを行っていたことに習って、収穫体験にゲーム性を取り入れた企画にすることで初対面でも話しやすい雰囲気作りが出来ました。

個人的には、ピザ作りの体験工房を貸し切って、ピザ作りの共同作業を企画したこともあります。生地をのばす際に丸く延ばすはずが、四角く出来上がってしまい逆に愛嬌があるところを見せてしまったハプニングもありました。

3. 「フルーツであま〜い婚活ツアー」成功の軌跡

このイベントを開催するに当たり、第一の難関が参加者の募集でした。特に女性の募集については盛岡市を中心に配布されているフリーペーパーを活用して募集をしました。女性の参加者については問題なく集める事が出来たのですが、逆に男性の参加者が不足する事態となりました。幸い、女性部盟友の方から「あそこの家に年頃の息子さんいると思うよ」などの情報提供をいただきアプローチするなど参加者集めを行ったこともあります。

そして、開催に至ったわけですが、開催当初はただの飲み会になってしまいました。会の進行や現在行っている「マッチング」と言った手法もうまく出来ていませんでした。バーベキューを行ったこともありますが、男性が焼く係になってしまって会話に集中できなかつたり、お互いの名前などが見えにくくお相手が誰かが分かりにくいなどの課題が見えました。

またあるときは、会場を離れ喫煙所でタバコを吸いながら男子同士でたむろしてしまうことがあり、タバコがNGであることも分かりました。このような失敗談は、地上の特集記事にも掲載されており、あらかじめ想定し予防策を講じるべきだと感じました。

極めつけは、談合疑惑もありました。マッチングの副賞の景品を目当てに男女が申し合わせて偽装したと言う指摘が出たこともありました。そんなことを考える前に、自分を磨いて欲しいものです。これについては、景品では無く、ペア食事券や映画券など2人で分配出来ないものにする事で対策が出来ました。

スタッフの対応についても課題がありました。交流会での話し相手のローテーションをスタッフが個別に行ったために参加者が困惑してしまう場面もあり、流れを見ながらスタッフが連携して交流を促す事に注意が必要だということも感じました。

そういった状況を経て、今では、盛岡市内の農家が経営するリンゴ畑にある素敵なカフェを貸し切りにし、夕日や夜景を見ながら交流会を行ったところ交流会のムードも非常に良くなり、マッチング率が高まっています。

4. 成婚実績

婚活が始まって4年目。ついにご成婚の報告が組合長に届くようになりました。おかげさまで、平成26年度は3組の方々がこの婚活事業をきっかけに入籍に至っております。

そして、私とその第3号となり、念願が叶って今年2月14日バレンタインデーに入籍させていただきました！！これは我が盟友にとって一つの成果であります。

今年度に入り、また一組ご成婚の報告を頂き計4組となっております。この2年で、立て続けにご成婚の報告が届き、JAも盟友もとても驚いているところですが、一定の成果がでてホッとしております。

何より成婚の報告はとてもおめでたいことですし、更にご成婚された盟友はこれを機に青年部盟友としてこれまで以上に活動に積極的に参加してくれることを確約していただいておりますので、青年部の活動にも寄与しております。

5. 今後の展望

この成果を基に今後も視野を広げて活動していきたいと思います。私も、嫁が出来たので、今度はイクメン教室でもどうかな？などと、新しい企画も含めさらなる展開を検討したいです。

我々はこれからも、このイベントを続けていきたいと思っております。青年部活動を活性化し、今後いっそう、JA運営に積極的に参加し、発言し、おらがJAにしていきたいとおもいます。